

癌研究会附属病院
レジデント・シニアレジデント

研修カリキュラムおよび各科業績評価表

改定第4版

癌研究会附属病院
レジデント・シニアレジデント

改定第4版

- 1) 内科
 - 肝胆膵
 - 消化管
 - 呼吸器

- 2) 化学療法科
- 3) 消化器外科
- 4) 呼吸器外科
- 5) 乳腺外科
- 6) 婦人科
- 7) 頭頸科
- 8) 整形外科
- 9) 泌尿器科
- 10) 放射線科
 - 診断部
 - 治療部
 - アイソトープ部

- 11) 麻酔科
- 12) 眼科
- 13) 家族性腫瘍センター

内科

消化器

肝胆膵

消化管

消化器内科（肝胆膵）レジデントカリキュラム

概要

消化器癌を診療するにあたり、疾患に対する実際的な知識もち、内視鏡検査や超音波検査、レントゲン検査の基本とその治療への応用を理解し、実践できることは重要である。また、数多くの症例を経験する中で、疾患の知識を深め、癌患者さん、ご家族への接し方、Informed consent(IC)の取り方を学び、さらに、消化器癌の標準的な薬物療法や内科的姑息的治療を理解し実施できるようにする。このカリキュラムは消化器全般の知識と技術を備えた肝胆膵内科専門医として、自ら検査を遂行し診断を下し、治療方針を決定し実施できる能力を身につけることを目標にしている。消化器の検査は非侵襲的なものから侵襲的なものまで多岐にわたり、誤った考え方、無理な操作が医療事故に結びつくため、各種検査の基本テクニック、術者としての心構えも指導医のもとで研修する。

レジデントカリキュラム

1. GIO (general instructional objective)

レジデント達成目標

1. 癌医療を志す医師として、全人的な診療をするための基本的姿勢を学ぶ。
2. 消化器癌（消化管、肝胆膵）の診断と治療を行う上で、基本的な知識と技術を習得する。

2. SBO (specific behavioral objectives)

A. 総論

1. 患者さん中心としたチーム医療を理解して実践できる（知、技）。
2. 患者さんやご家族に医師として品位ある態度で対応する（知、技）。
3. 消化器癌患者の現病歴、既往歴、家族歴を聴取できる（知、技）。
4. 消化器癌患者の理学的所見を取れる（知、技）。
5. 消化器癌患者の全身状態を把握して、適切な検査を依頼できる（知、技）。
6. 消化器癌患者のインフォームドコンセントを取り、まとめることができ

- る（知、技）。
7. 内外の医学情報収集ができる（知、技）。

B. 肝臓癌・胆道癌・膵臓癌の基礎知識

1. 肝胆膵の正常解剖を説明できる（知）。
2. 肝胆膵の疾患を説明できる（知）。
3. 肝胆膵の各種検査法を説明できる（知）。
4. 肝細胞癌とウイルス性慢性肝疾患との関係を説明できる（知）。
5. 肝細胞癌の検査法と画像診断の特徴を説明できる（知）。
6. 肝細胞癌の治療法と治療法の選択について説明できる（知）。
7. 肝癌類似病変を説明できる（知）。
8. 肝細胞癌と肝癌類似病変の鑑別診断を説明できる（知）。
9. 肝内胆管癌の画像診断の特徴を説明できる（知）。
10. 肝内胆管癌の治療法を説明できる（知）。
11. 転移性肝癌の画像診断の特徴を説明できる（知）。
12. 転移性肝癌の治療法を説明できる（知）。
13. 胆道癌と胆石の関係を説明できる（知）。
14. 膵胆管合流異常症を説明できる（知）。
15. 胆嚢ポリープの検査法と画像診断の特徴を説明できる（知）。
16. 胆嚢ポリープの手術適応を説明できる（知）。
17. 胆嚢壁肥厚病変を説明できる（知）。
18. 胆嚢壁肥厚病変の検査法と鑑別診断を説明できる（知）。
19. 胆嚢癌の検査法と画像診断の特徴を説明できる（知）。
20. 胆嚢癌の治療法を説明できる（知）。
21. 胆管癌の検査法と画像診断の特徴を説明できる（知）。
22. 胆管癌の治療法を説明できる（知）。
23. 膵癌の検査法と画像診断の特徴を説明できる（知）。
24. Intraductal Papillary Mucinous Tumor (IPMT) を説明できる（知）。
25. Mucinous Cystic Tumor (MCT) を説明できる（知）。
26. 膵癌と他の膵疾患の鑑別診断を説明できる（知）。
27. 膵癌の治療法を説明できる
28. 肝胆膵の救急疾患を説明できる（知）。

C. 検査と治療

1. 消化器内視鏡検査の適応を説明できる (知)。
2. 機器の消毒法、検査前後の患者管理を説明できる (知)。
3. 消化器内視鏡検査の合併症とその対応を説明できる (知)
4. 消化管レントゲン検査の適応を説明できる(知)。
5. 消化管レントゲンフィルムの所見を説明できる (知)。
6. 腹部エコー検査の適応を説明できる (知)。
7. 腹部エコー所見を説明できる (知)。
8. 腹部エコーで肝胆膵脾腎などの臓器を描出できる (技)。
9. 腹部エコーガイド下の細胞診、生検の合併症とその対策を説明できる (知)。
10. エタノール局注療法 (PEIT) を説明できる (知)。
11. ラジオ波焼灼療法について説明できる (知)。
12. 造影剤の副作用とその対策を説明できる (知)。
13. 腹部 CT 検査の撮像法を説明できる (知)。
14. 腹部 CT 所見を説明できる (知)。
15. MRI 検査の撮像法を説明できる (知)。
16. MRI 所見を説明できる (知)。
17. 超音波内視鏡検査の適応を説明できる (知)。
18. 超音波内視鏡検査の所見を説明できる (知)。
19. ERCP の検査適応を説明できる (知)。
20. ERCP 所見を説明できる (知)。
21. ERCP を読影できる (知、技)。
22. 十二指腸スコープを操作し、pull 法で十二指腸乳頭を正面視できる (技)。
23. 十二指腸大乳頭、小乳頭の観察ができる (知、技)。
24. 胆膵内視鏡治療とその適応について説明できる (知)。
25. 経皮経肝胆道ドレナージ (PTBD) を説明できる (知)。
26. PTBD 所見を説明できる (知)。
27. PTBD の適応について説明できる (知)。
28. PTBD の合併症とその対策を説明できる (知)。
29. カテーテルの交換ができる (技)
30. 瘻孔拡張術を施行できる (技)。
31. 腹部血管造影所見を説明できる (知)。
32. 血管造影法で大腿動静脈の穿刺ができる (技)。
33. 血管造影検査でカテーテルとガイドワイヤーの基本的操作がわかる (知、技)。
34. 腹腔動脈、上腸間膜動脈の catheterization ができる (知、技)。
35. 肝動注療法を説明できる (知)。

36. 肝動脈塞栓術を説明できる (知)。
37. 動注リザーバー療法を説明できる (知)。
38. 動注リザーバー療法の適応と合併症を説明できる (知)。
39. 動注リザーバーカテーテル留置術の助手を務められる (技)。
40. 肝胆膵の化学療法について説明できる (知)。
41. 化学療法の副作用とその対策を説明できる (知)。

シニアレジデントカリキュラム

1. GIO (general instructional objective)

シニアレジデント達成目標

1. 癌医療を志す医師として、全人的な診療をするための基本的姿勢を学ぶ。
2. 消化器癌（肝胆膵）の診断と治療を行う上で、幅広い知識と技術を習得する。
3. 臨床研究をまとめ、国内外の学会で発表し論文にする。

2. SBO (specific behavioral objectives)

D. 総論

1. 難治癌患者さん、ターミナルの患者さん、そのご家族の心理状態を理解し、精神的なサポートができる (知、技)。
2. 集学的治療を理解し実践できる (知、技)。
- 3.カンファレンスにおいて適切な質問ができる (知、技)。
4. データをまとめ国内外の学会で発表できる (知、技)。
5. 臨床研究をまとめて論文作成ができる (知、技)。

E. 検査と治療

1. 上部消化器内視鏡検査を施行できる (知、技)。
2. 消化管レントゲンフィルムを読影できる (知、技)。
3. 肝胆膵疾患の臨床病理を理解し説明できる (知)

4. 腹部エコーで病変の拾い上げができる (知、技)。
5. 腹部 CT を読影できる (知、技)。
6. MRI 所見を読影できる (知、技)。
7. 腹部エコーガイド下の細胞診、生検ができる (知、技)。
8. PEIT を施行できる (知、技)。
9. 超音波内視鏡検査を施行できる (知、技)。
10. 膵管造影ができる(知、技)。
11. 胆管造影ができる (知、技)。
12. 内視鏡的乳頭切開術 (EST) を指導医のもと施行できる (知、技)。
13. 内視鏡的胆管ステント (ERBD) 留置を指導医のもと施行できる (知、技)。
14. 内視鏡的経鼻胆管ドレナージ (ENBD) を指導医のもと施行できる (知、技)。
15. 内視鏡的膵管ステント (ERPD) 留置を指導医のもと施行できる (知、技)。
16. 胆汁採取のための深部挿管ができる (技)。
17. 指導医のもと胆管生検ができる (知、技)。
18. 膵液採取のための膵管深部挿管ができる (技)。
19. 指導医のもと膵管生検ができる (知、技)。
20. PTBD フィルムを読影できる (知、技)。
21. エコーガイド下に PTBD を施行できる (知、技)。
22. X 線透視下に PTBD を施行できる (知、技)。
23. 胆道内視鏡検査を指導医のもと施行できる (知、技)。
24. 胆嚢ドレナージ、膿瘍ドレナージを指導医のもと施行できる (知、技)。
25. 腹部血管造影所見を説明できる (知)。
26. 腹部血管造影所見を読影できる(知、技)。
27. 血管造影の撮像方法を説明できる (知)。
28. マイクロカテーテルを使い選択的な血管 catheterization ができる (技)
29. 肝動注療法を施行できる (知、技)。
30. 肝動脈塞栓術を施行できる (知、技)。
31. エコーガイド下に門脈穿刺を施行できる (技)。
32. 指導医のもと門脈の catheterization ができる (技)
33. 指導医のもと門脈塞栓術が施行できる (技)。
34. 肝胆膵の化学療法を施行できる (知、技)。
35. 化学療法のプロトコールを理解して説明できる (知)。

Strategies

病棟診療 A1-6、B1-28、C1, 3, 5-9、11-14、16、18、
19-22、26-30、33, 37-40、42-43、
D1-2、E2-3、5-6、20、25-26、34-35

外来診療 A1-6、B1-28、C1, 3, 5-9、11-14、16、18、
19-22、26-30、33, 37-40、42-43、
D1-2、E2-3、5-6、20、25-26、34-35

検査 B1-3、5、7-9、11、14-15、17-19、21、
23-26、28、C1-11、14、15-25、28-36、E1, 4, 7、
9-11、16-19、23、27-28、31-33

治療 (intervention) A6、B1-3、6、10、12、16、27、28、
C12、13、26-43、D2、E8、12-15、21-22、24、
28-30、34-35

カンファレンス

A7、B1-28、D3-4

抄読会

A7

文献検索

A7、D4-5

学会参加

A7、D4

内科 肝胆膵 評価表

(レジデント/シニアレジデント) 名前:

自己評価	指導医評価 指導医名 ()	3=よくできた、 2=ある程度できるようになった 1=少しできた 0=まったくできなかった	自己評価<指導医評価=○ 自己評価>指導医評価=△ 自己評価と指導医評価が ともに3点=◎	
			差 (自己評価-指導医評価)	
レジデント 目標76項目				
A. 総論				
1		3 2 1 0	3 2 1 0	
2		3 2 1 0	3 2 1 0	
3		3 2 1 0	3 2 1 0	
4		3 2 1 0	3 2 1 0	
5		3 2 1 0	3 2 1 0	
6		3 2 1 0	3 2 1 0	
7		3 2 1 0	3 2 1 0	
B. 肝臓病、胆道病、膵臓病の基礎知識				
8		3 2 1 0	3 2 1 0	
9		3 2 1 0	3 2 1 0	
10		3 2 1 0	3 2 1 0	
11		3 2 1 0	3 2 1 0	
12		3 2 1 0	3 2 1 0	
13		3 2 1 0	3 2 1 0	
14		3 2 1 0	3 2 1 0	
15		3 2 1 0	3 2 1 0	
16		3 2 1 0	3 2 1 0	
17		3 2 1 0	3 2 1 0	
18		3 2 1 0	3 2 1 0	
19		3 2 1 0	3 2 1 0	
20		3 2 1 0	3 2 1 0	
21		3 2 1 0	3 2 1 0	
22		3 2 1 0	3 2 1 0	
23		3 2 1 0	3 2 1 0	
24		3 2 1 0	3 2 1 0	
25		3 2 1 0	3 2 1 0	

26	19. 胆嚢癌の検査法と画像診断の特徴を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
27	20. 胆嚢癌の治療法を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
28	21. 胆管癌の検査法と画像診断の特徴を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
29	22. 胆管癌の治療法を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
30	23. 膵癌の検査法と画像診断の特徴を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
31	24. Intraductal Papillary Mucinous Tumor (IPMT) を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
32	25. Mucinous Cystic Tumor (MCT) を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
33	26. 膵癌と他の膵疾患の鑑別診断を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
34	27. 膵癌の治療法を説明できる	3	2	1	0	3	2	1	0
35	28. 肝胆膵の救急疾患を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
C. 検査と治療									
36	1. 消化器内視鏡検査の適応を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
37	2. 機器の消毒法、検査前後の患者管理を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
38	3. 消化器内視鏡検査の合併症とその対応を説明できる (知)	3	2	1	0	3	2	1	0
39	4. 消化管レントゲン検査の適応を説明できる(知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
40	5. 消化管レントゲンフィルムの所見を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
41	6. 腹部エコー検査の適応を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
42	7. 腹部エコー所見を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
43	8. 腹部エコーで肝胆膵脾腎などの臓器を描出できる (技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
44	9. 腹部エコーガイド下の細胞診、生検の合併症とその対策を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
45	10. エタノール局注療法 (PEIT) を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
46	11. ラジオ波焼灼療法について説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
47	12. 造影剤の副作用とその対策を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
48	13. 腹部CT検査の撮像法を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
49	14. 腹部CT所見を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
50	15. MRI検査の撮像法を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
51	16. MRI所見を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
52	17. 超音波内視鏡検査の適応を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
53	18. 超音波内視鏡検査の所見を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
54	19. ERCPの検査適応を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
55	20. ERCP所見を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
56	21. ERCPを読影できる (知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
57	22. 十二指腸スコープを操作し、pull法で十二指腸乳頭を正面視できる (技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
58	23. 十二指腸大乳頭、小乳頭の観察ができる (知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0

59	24. 胆膵内視鏡治療とその適応について説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
60	25. 経皮経肝胆道ドレナージ (PTBD) を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
61	26. PTBD所見を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
62	27. PTBDの適応について説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
63	28. PTBDの合併症とその対策を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
64	29. カテーテルの交換ができる (技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
65	30. 瘻孔拡張術を施行できる (技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
66	31. 腹部血管造影所見を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
67	32. 血管造影法で大腿動静脈の穿刺ができる (技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
68	33. 血管造影検査でカテーテルとガイドワイヤーの基本的操作がわかる (知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
69	34. 腹腔動脈、上腸間膜動脈のcatheterizationができる (知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
70	35. 肝動注療法を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
71	36. 肝動脈塞栓術を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
72	37. 動注リザーバー療法を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
73	38. 動注リザーバー療法の適応と合併症を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
74	39. 動注リザーバーカテーテル留置術の助手を務められる (技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
75	40. 肝胆膵の化学療法について説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
76	41. 化学療法の副作用とその対策を説明できる (知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
総計									
76項目=228点満点				/228				/228	
修得率				%				%	
意欲、態度、協調性5点満点									
総合点100点満点中									

シニアレジデント 目標40項目

D. 総論									
1	1. 難治癌患者さん、ターミナルの患者さん、そのご家族の心理状態を理解し、精神的なサポートができる (知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
2	2. 集学的治療を理解し実践できる (知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
3	3. カンファレンスにおいて適切な質問ができる (知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
4	4. データをまとめ国内外の学会で発表できる (知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
5	5. 臨床研究をまとめて論文作成ができる (知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
E. 検査と治療									
6	1. 上部消化器内視鏡検査を施行できる (知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0

7	2. 消化管レントゲンフィルムを読影できる(知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
8	3. 肝胆臓疾患の臨床病理を理解し説明できる(知)	3	2	1	0	3	2	1	0
9	4. 腹部エコーで病変の拾い上げができる(知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
10	5. 腹部CTを読影できる(知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
11	6. MRI所見を読影できる(知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
12	7. 腹部エコーガイド下の細胞診、生検ができる(知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
13	8. PEITを施行できる(知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
14	9. 超音波内視鏡検査を施行できる(知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
15	10. 膵管造影ができる(知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
16	11. 胆管造影ができる(知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
17	12. 内視鏡的乳頭切開術(EST)を指導医のもと施行できる(知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
18	13. 内視鏡的胆管ステント(ERBD)留置を指導医のもと施行できる(知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
19	14. 内視鏡的経鼻胆管ドレナージ(ENBD)を指導医のもと施行できる(知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
20	15. 内視鏡的膵管ステント(ERPD)留置を指導医のもと施行できる(知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
21	16. 胆汁採取のための深部挿管ができる(技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
22	17. 指導医のもと胆管生検ができる(知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
23	18. 膵液採取のための膵管深部挿管ができる(技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
24	19. 指導医のもと膵管生検ができる(知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
25	20. PTBDフィルムを読影できる(知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
26	21. エコーガイド下にPTBDを施行できる(知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
27	22. X線透視下にPTBDを施行できる(知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
28	23. 胆道内視鏡検査を指導医のもと施行できる(知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
29	24. 胆嚢ドレナージ、膿瘍ドレナージを指導医のもと施行できる(知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
30	25. 腹部血管造影所見を説明できる(知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
31	26. 腹部血管造影所見を読影できる(知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
32	27. 血管造影の撮像方法を説明できる(知)。	3	2	1	0	3	2	1	0
33	28. マイクロカテーテルを使い選択的な血管catheterizationができる(技)	3	2	1	0	3	2	1	0
34	29. 肝動注療法を施行できる(知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
35	30. 肝動脈塞栓術を施行できる(知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
36	31. エコーガイド下に門脈穿刺を施行できる(技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
37	32. 指導医のもと門脈のcatheterizationができる(技)	3	2	1	0	3	2	1	0
38	33. 指導医のもと、門脈塞栓術が施行できる(技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
39	34. 肝胆膵の化学療法を施行できる(知、技)。	3	2	1	0	3	2	1	0
40	35. 化学療法のプロトコルを理解して説明できる(知)。	3	2	1	0	3	2	1	0

総計			
		/120	/120
40項目=120点満点			
修得率		%	%
意欲、態度、協調性5点満点			
総合点100点満点中			

<講評>

内視鏡部

研修プログラム

- ・主に消化管腫瘍の診断および治療のうち、内視鏡に関わる医療についての研修を主目的とする。

- ・診断のうちX線診断は放射線診断部で、治療のうち化学療法は化学療法科、外科的治療は消化器外科と連携し、集学的治療を担う。

- ・レジデントは消化器内視鏡の基礎として、上部内視鏡検査の診断を中心に、シニアレジデントは治療内視鏡、大腸内視鏡を中心に行う。肝胆膵内視鏡はレジデント終了後、肝胆膵グループで行う。

- ・研修は添付の内視鏡部ガイドラインに則って行う。

GIO (General instructional objectives)

消化器内視鏡医として要求される、診断学、治療方針決定のプロセス、インフォームド・コンセント等の基本技術を実行できる。また、消化器内視鏡専門医として要求される、基本的な治療手技、治療法の効果の客観的な評価、患者のフォローアップ等、発展的知識・技術を実行できる。

1.レジデント達成項目

期間：6ヶ月

対象：初期研修2年終了者以上

方法：内視鏡部での内視鏡診療の従事。レジデントと指導医との共同診療

SBO (Specific behavior objectives)

一般的な項目

1. 一般的な消化器疾患の病態を理解し、説明できる。(知、技)
2. 消化管癌の病歴、理学的所見をとれる。(知、技)
3. 症状を的確に確認し、可能性のある疾患を理解し、説明できる。
4. 症状・病歴・理学所見から、適切な検査計画を立てられる。(知、技)
5. 理学的所見と検査結果を解釈し、正確な病期診断をできる。(知、技)
6. 診断に基づき、適切な治療法を選択し、説明できる。(知、技、態)
7. 検査・治療の目的と適応について理解し、説明できる。(知、技、態)
8. ガイドラインに則り、上部消化管内視鏡検査ができる。(知、技)
9. 消化管X線検査の基本について理解し、撮影して説明できる。(知、技)
10. 内視鏡診断に必要な基本的病理学的事項について、説明できる。(知、技)

内視鏡検査に関する項目

11. 内視鏡検査の適応と禁忌について理解し、説明できる。(知、技)
12. 内視鏡および処置具について、構造を理解し、セッティングできる。(知、技)
13. 前処置・前投薬の作用機序を理解し、選択した上で説明できる。(知、技)
14. 前処置・前投薬の使用薬剤の副作用について理解し、適切に対応できる。
(知、技)

15. モニタリングについて理解し、説明できる。(知、技)
16. どのような偶発症があるのか理解し、患者に説明し対処できる。(知、技、態)
17. 通常上部内視鏡検査を施行し、良性病変を観察し診断できる。(知、技)
18. 通常上部内視鏡検査を施行し、悪性病変を観察し診断できる。(知、技)
19. 色素内視鏡検査（コントラスト法）を理解し、精度の高い病変診断ができる。(知、技)
20. 食道色素内視鏡検査（ルゴール法）を理解し、精度の高い病変診断ができる。(知、技)
21. 病変部を認識し、的確に生検組織採取ができる。(知、技)
22. 生検組織診の結果から、病態を理解し、説明できる。(知、技、態)
23. 術後の処置について理解し説明できる。(知、技)
24. 内視鏡および処置具の洗浄と保管について理解し、実行できる。(知、技)
25. 内視鏡検査の結果から、治療方針を決定し患者に説明できる。(知、技、態)

その他

26. 必要な文献を検索できる。(知)
27. 臨床研究について理解でき、説明できる。(知)

2.シニアレジデント達成項目

期間：6-18ヶ月

対象：レジデント内視鏡部修了者

方法：内視鏡部での内視鏡診療の従事。レジデントと指導医との共同診療

SBO (Specific behavior objectives)

一般的な項目

28. 消化管癌の病期や組織分類の違いによる特徴を理解し、説明できる。(知、技)
29. 消化管出血・出血性ショックの病態を理解し、適切な管理ができる。(知、

技)

30. 病変の内視鏡所見、X線所見、病理組織像を対比して理解、説明できる。
(知、技)

内視鏡検査に関する項目

31. 診断・治療に必要な特殊内視鏡検査を理解して、施行できる。(知、技)
32. 大腸内視鏡・ERCPなどの上部以外の内視鏡検査を理解し、施行できる。
(知、技)
33. 消化管出血患者の出血源の同定し、止血できる。(知、技)
34. ポリペクトミー、粘膜切除術などの内視鏡的切除術を理解し、施行できる。
(知、技)
35. 消化管狭窄に対しての内視鏡的イレウス管挿入・ステント挿入術を理解し、
施行できる。(知、技)

その他

36. 臨床研究テーマについて議論ができる。(知、技)
37. 臨床研究の結果を学会発表できる。(知、技)
38. 臨床研究の結果を論文投稿できる。(知、技)
39. 適切な態度、話し方で informed consent ができる。
40. 緊急で外科処置が必要な病態について理解し、外科医に相談、依頼できる。
(知、技、態)
41. 患者の内視鏡フォローアップの方法について理解し、実践できる。(知、
態)
42. 求められた second opinion に対して適切に回答できる。(知、技、態)

内科 消化管 評価表

(レジデント/シニアレジデント) 名前:

自己評価	3=よくできた、 2=ある程度できるようになった 1=少しできた 0=まったくできなかつた	自己評価<指導医評価>の差 (自己評価-指導医評価)	
		自己評価	指導医評価 指導医名 ()
一般的な項目			
1	1. 一般的な消化器疾患の病態を理解し、説明できる。(知、技)	3	2 1 0
2	2. 消化管癌の病歴、理学的所見をとれる。(知、技)	3	2 1 0
3	3. 症状を的確に確認し、可能性のある疾患を理解し、説明できる。	3	2 1 0
4	4. 症状・病歴・理学所見から、適切な検査計画を立てられる。(知、技)	3	2 1 0
5	5. 理学的所見と検査結果を解釈し、正確な病期診断をできる。(知、技)	3	2 1 0
6	6. 診断に基づき、適切な治療法を選択し、説明できる。(知、技、態)	3	2 1 0
7	7. 検査・治療の目的と適応について理解し、説明できる。(知、技、態)	3	2 1 0
8	8. ガイドラインに則り、上部消化管内視鏡検査ができる。(知、技)	3	2 1 0
9	9. 消化管X線検査の基本について理解し、撮影して説明できる。(知、技)	3	2 1 0
10	10. 内視鏡診断に必要な基本的病理学的事項について、説明できる。(知、技)	3	2 1 0
内視鏡検査に関する項目			
11	11. 内視鏡検査の適応と禁忌について理解し、説明できる。(知、技)	3	2 1 0
12	12. 内視鏡および処置具について、構造を理解し、セッティングできる。(知、技)	3	2 1 0
13	13. 前処置・前投薬の作用機序を理解し、選択した上で説明できる。(知、技)	3	2 1 0
14	14. 前処置・前投薬の使用薬剤の副作用について理解し、適切に対応できる。(知、技)	3	2 1 0
15	15. モニタリングについて理解し、説明できる。(知、技)	3	2 1 0
16	16. どのような偶発症があるのか理解し、患者に説明し対処できる。(知、技、態)	3	2 1 0
17	17. 通常上部内視鏡検査を施行し、良性病変を観察し診断できる。(知、技)	3	2 1 0
18	18. 通常上部内視鏡検査を施行し、悪性病変を観察し診断できる。(知、技)	3	2 1 0
19	19. 色菜内視鏡検査(コントラスト法)を理解し、精度の高い病変診断ができる。(知、技)	3	2 1 0
20	20. 食道色菜内視鏡検査(ルゴール法)を理解し、精度の高い病変診断ができる。(知、技)	3	2 1 0
21	21. 病変部を認識し、的確に生検組織採取ができる。(知、技)	3	2 1 0
22	22. 生検組織診の結果から、病態を理解し、説明できる。(知、技、態)	3	2 1 0
23	23. 術後の処置について理解し説明できる。(知、技)	3	2 1 0
24	24. 内視鏡および処置具の洗浄と保管について理解し、実行できる。(知、技)	3	2 1 0
25	25. 内視鏡検査の結果から、治療方針を決定し患者に説明できる。(知、技、態)	3	2 1 0
その他			
26	26. 必要な文献を検索できる。(知)	3	2 1 0
27	27. 臨床研究について理解でき、説明できる。(知)	3	2 1 0

自己評価<指導医評価>の差
(自己評価-指導医評価)

3=よくできた、
2=ある程度できるようになった
1=少しできた
0=まったくできなかつた

自己評価
指導医名 ()

自己評価<指導医評価>の差
(自己評価-指導医評価)

総計		/81	/81
27項目=81点満点			
修得率		%	%
意欲、態度、協調性5点満点			
総合点100点満点中			

シニアレジデント 目標15項目

一般的な項目			
1	28. 消化管癌の病期や組織分類の違いによる特徴を理解し、説明できる。(知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0
2	29. 消化管出血・出血性ショックの病態を理解し、適切な管理ができる。(知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0
3	30. 病変の内視鏡所見、X線所見、病理組織像を対比して理解、説明できる。(知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0
内視鏡検査に関する項目			
4	31. 診断・治療に必要な特殊内視鏡検査を理解して、施行できる。(知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0
5	32. 大腸内視鏡・ERCPなどの上部以外の内視鏡検査を理解し、施行できる。(知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0
6	33. 消化管出血患者の出血源の同定し、止血できる。(知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0
7	34. ポリペクトミー、粘膜切除術などの内視鏡的切除術を理解し、施行できる。(知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0
8	35. 消化管狭窄に対しての内視鏡的イレウス管挿入・ステント挿入術を理解し、施行できる。(知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0

その他			
9	36. 臨床研究テーマについて議論ができる。(知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0
10	37. 臨床研究の結果を学会発表できる。(知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0
11	38. 臨床研究の結果を論文投稿できる。(知、技)	3 2 1 0	3 2 1 0
12	39. 適切な態度、話し方でinformed consent ができる。	3 2 1 0	3 2 1 0
13	40. 緊急で外科処置が必要な病態について理解し、外科医に相談、依頼できる。(知、技、態)	3 2 1 0	3 2 1 0
14	41. 患者の内視鏡フォローアップの方法について理解し、実践できる。(知、態)	3 2 1 0	3 2 1 0
15	42. 求められたsecond opinionに対して適切に回答できる。(知、技、態)	3 2 1 0	3 2 1 0

総計		/45	/45
15項目=45点満点			
修得率		%	%
意欲、態度、協調性5点満点			
総合点100点満点中			

<講評>